

# 授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル (科目名)  社会的養護 I	授業の種類 ( <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">講義</span> ・ 演習 ・ 実習 )	授業担当者  星 恵美子	当該科目に関する実務経験  障がい児児童施設 相談員・養護学校 教員・放課後ディ サービス児童発達 管理者
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1年・前期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会的養護の基本理念を理解し、保育者としての役割を正しく認識する。</li> <li>・ 社会的養護における法体系と制度を把握し、適切な支援の在り方を考える。</li> </ul> [授業の概要] 保育の専門職者として、社会的養護問題における現状を知り、ニーズに応じた適切な支援をしていくための基礎的な知識を習得する。			
[授業終了時の達成課題 (到達目標)] <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会的養護の理念を始め、法体系や制度などに関する基礎的な知識を習得している。</li> <li>・ 社会的養護における保育者としての役割を正しく認識している。</li> <li>・ 現状の社会的養護問題に関心を持ち、適切な支援の在り方を見いだすことができる。</li> </ul>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 1. オリエンテーション、社会的養護とは 2. 社会的養護の歴史的変遷①～第二次世界大戦以前～ 3. 社会的養護の歴史的変遷②～第二次世界大戦以後～ 4. 子どもの権利 5. 社会的養護にかかわる法令 6. 社会的養護の実施体制と仕組み 7. 施設養護と家庭養護の特質と基本原則 8. 施設養護の実際①—乳児院・母子生活支援施設・児童養護施設 9. 施設養護の実際②—障害児入所施設・児童発達支援センター 10. 施設養護の実際③—児童心理治療施設・児童自立支援施設 11. 家庭養護の実際—里親・ファミリーホーム 12. 社会的養護における専門職・倫理 13. 施設の運営管理 14. 養護問題の現状と社会的養護の展望 15. 期末考査			
[使用テキスト] ・新基本保育シリーズ 社会的養護 I 中央法規出版			
[成績評価の方法と基準] 教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し学内共通の基準による絶対評価を行う。			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 考査点 (75%)</li> <li>・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考査を実施する。</li> <li>・ 平常点 (25%)</li> <li>・ 授業時に提示された課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。</li> <li>・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。</li> </ul>			